

これからのために、やるべきことを。 変化する社会で役立つ実学教育

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

国内の大学で初となる
自然エネルギー100%大学

千葉県野田市。約4・7haもの広大な敷地にメガソーラー野田発電所の太陽光パネルが広がっている。地球温暖化対策として自然エネルギーへの期待が高まっている中、「大学が使う電力を大学の責任でつくれるか？」をテーマとして2014年からこの活動は始まった。

2014年度の発電実績は336万kWhで、これは学内電力消費量の77%に相当した。不足する23%をキャンパス内の省エネと創エネで賄えば自然エネルギー100%のエコキャンパスは実現する。2015年には、その可能性調査を行った。そして、2017年に新たに就任した原科学長は、この活動を学長プロジェクトの

ひとつとして位置づけ、全学的な取り組みとして「自然エネルギー100%大学」をめざすことにした。

この環境目標の実現に欠かせない柱が3つある。発電所やキャンパスにおける太陽光パネルの増設や照明LED化といった「ハードウェア」の整備、電力の見える化や制御を支える「ソフトウェア」の導入、行動につながる意識である「ハートウェア」の形成だ。

中でもハートウェアづくりで大きな役割を担っているのが学内の学生団体SONEである。学生目線で省エネへの取り組みを企画・実施し、学内電力消費量の削減をはかった。具体的には、メンバーがキャンパスを見回り、冷房の効いた教室でのドアの開けっ放し、日中の廊下の照明点灯等、省エネできるポイントを探る。発見した問題の解決方法を考えて実

行に移し、結果を検証するPDCAサイクルを実践。さらに、毎年7月の省エネ週間では「打ち水で涼しく大作戦」を開催し、省エネの意識や行動を全学生・教職員に促している。

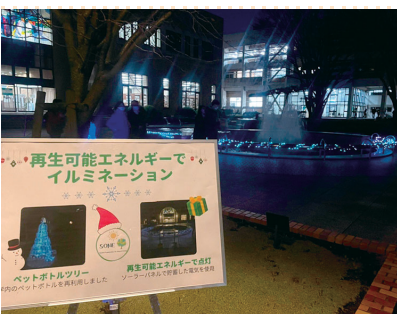
そして2019年、ついに再エネ発電量と消費電力量が同量となる「自然エネルギー100%大学」を達成。この活動は各界で評価され、地球温暖化防止活動環境大臣表彰、省エネ大賞、さらに新エネ大賞等も受賞し、令和2年度版環境白書において取り組みが紹介された。

現在では、この活動を他の大学にも広げようと取り組んでいる。2021年6月、自然エネルギーの活用等を通じ大学活動に伴う環境負荷を減らすことを目的として、「自然エネルギー大学リーグ」を発足。プロジェクトは、まだまだ続く。

(右上) 太陽光パネル計11,642枚、パネル容量は約2.88MWを誇る千葉商科大学メガソーラー野田発電所 (2018年度)。

(右下) キャンパス内で打ち水を行い、クーラーに頼らない涼しい過ごし方を実感してもらうことを目的とした「打ち水で涼しく大作戦」。SONEメンバーに加え、公募で集まった学生が声をかけを行い、多くの学生が打ち水に参加した (2021年度)。

(左下) 学生団体SONEは、「みんなが快適で無理せず続けられる省エネ」を理念として能動的に省エネ施策を行い、学内の省エネマインドを醸成している。



創立以来の伝統である「実学教育」を通してSDGsに貢献するため、千葉商科大学(CUC)では社会が必要とする大学であり続けるための取り組みを全学的に推進している。ここではその一部を紹介しよう。

取材・文 / 林 康章

これからの未来に貢献する各学部のおも取り組み

オーナーズプログラム



企業の課題に対して解決策を提案する特別教育プログラム。2021年度は近畿日本ツーリスト(株)の課題「観光の力で千葉県内の観光需要の回復・地域経済の活性化を実現する」に対して観光プランを発表。

ゲーミング

シミュレーションプロジェクト



様々な社会課題(ウイルス、ゴミ捨て、人口問題等)をテーマにしたシリアスゲームを制作。ゲームのプレイヤーが、社会課題の現状や課題、解決策を学び、興味関心を持つきっかけになることをめざしている。

CUC

エシカル学生クラブ



学生や教職員、地域住民に向けて、人・社会・環境に配慮した消費行動「エシカル消費」を実践してもらえよう活動する学生団体。フェアトレードやオーガニック認証商品を広めるため、学内外での活動を展開。

まちなみ塾



現場のまちにアイデアを学びながら、次世代のまちづくりのプランを企画するプロジェクト。2021年度は千葉県香取市の水郷佐原を舞台に、観光客と住民がお互いにWin-Winの関係を生み出すまちの在り方を考察。

千葉日報

新聞制作プロジェクト



地元の新聞メディアである千葉日報が主催する新聞制作プロジェクト。2021年度は、動物愛護ボランティア取材して「コロナ禍の保護犬・保護猫のゆくえ」について調査・発信した本学のチームが優秀賞を受賞。

社会の課題を解決する実学を实践する学びを

2030年までに持続可能な世界をめざすことを定めた国際目標であるSDGs。千葉商科大学では実学を通してSDGsに貢献する学びを積極的に取り入れている。

商経学部では、企業が提示する課題に解決策を提案することで、現代社会が抱える様々な課題への理解を深める「オーナーズプログラム」を実施。千葉県の経済活性化をテーマに、その魅力を再発見できる観光プランを提案した。

政策情報学部の「ゲーミングシミュレーションプロジェクト」では、地域政策コースとメディア情報コースが協働して、現代の社会課題をテーマにしたシリアスゲームを制作。より多くの人が楽しみながら社会課題への理解を深め、自分ごと化できるように工夫を凝らしている。

サービス創造学部の学生が中心を担う「CUCエシカル学生クラブ」では、フェアトレード認証商品を販売するコミュニティ・カフェの企画や運営等を通して、SDGsやエシカル消費(つくる責任、つかう責任)の啓蒙活動に注力している。

人間社会学部では、SDGs「住み続けられるまちづくりを」を実現

するために「まちなみ塾」を開催。通年で通うフィールドを設定し「あるく・みる・きく」を繰り返しながら、現地の方から次世代のまちづくりの在り方を学んでいる。

国際教養学部の「千葉日報 新聞制作プロジェクト」では、(株)千葉日報社で新聞づくりに必要な研修を受けながら、社会課題をテーマに記事執筆。企画を具体化するため現場に足を運び取材を行う等、社会の多様な課題と向き合っている。

幅広い教養と高い倫理観を備えた「治道家」を育成する

急速に変化する時代に対応する

ために教育はどうあるべきか。千葉商科大学では、大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸問題を解決する高い倫理観を備えた指導者を指す「治道家」を育成するため、SDGsに貢献する学びを通して幅広い教養を身につける等、実学の実践を重視している。また、研究・社会貢献においては、環境・エネルギーを始め、会計学の新展開、CSR研究と普及啓発、安全安心な都市・地域づくり等、持続可能な社会づくりに貢献する4つの学長プロジェクトも進んでいる。社会から必要とされる大学であり続けるために、千葉商科大学は社会の変化に合わせてさらなる進化を続けている。

Information

千葉商科大学



巢鴨高等商業学校(1928年)を前身として1950年開学。現在は商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部を擁し、独自のプロジェクトによる実学教育で内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUCアライアンス企業」約901社(2022年1月現在)との提携や資格取得サポート等、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

●DATA

千葉県市川市国府台1-3-1
TEL 047-373-9701 (入学センター)
URL <https://www.cuc.ac.jp/>